

## みずほマーケット・トピック(2025年7月4日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

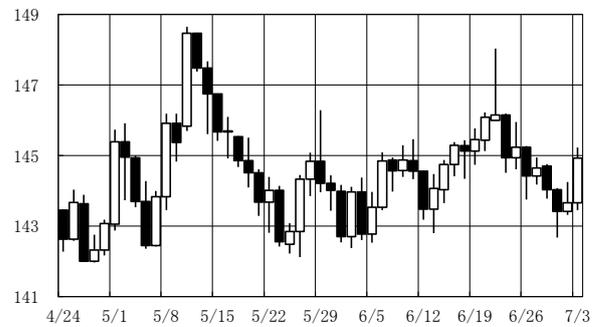
※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

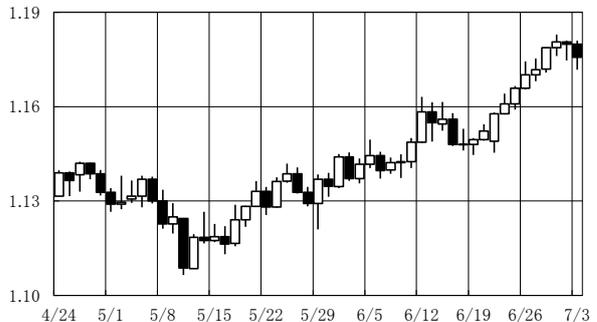
- 今週のドル/円は週初こそ下落基調で推移も、週末にかけては反発した。週初6月30日、144.51円でオープンしたドル/円は実需のドル買いから小幅高でスタートも、仲値公表後はドル安に転じ144円を割り込む展開。海外時間は、米金利動向に振られながら上下動するも、総じて144円台前半でのレンジ推移に留まった。7月1日、ドル/円は本邦4~6月期日銀短観が予想より良好だったことを受け、明確に144円を割り込む。海外時間は、米金利低下と共に一時週安値となる142.69円まで続落も、その後は米6月ISM製造業景気指数や米5月JOLT求人件数の予想を上回る結果を好感し、143円台半ばを回復した。2日、ドル/円はドル買い相場が続ぎ、143円台後半でじり高。海外時間は、144円台に乗せる時間帯も見られたものの、米6月ADP雇用統計の予想を大きく下回る軟調な結果を受け下落、143円台後半を中心に上値重く推移した。3日、ドル/円は143円台後半でじり高。海外時間は、米6月雇用統計の堅調な結果を受けてドル買いが加速し、米金利急上昇と共に一時週高値となる145.27円まで急伸した。本日のドル/円は、ドル買いの一服を受けて144円台後半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは堅調に推移、週前半には年初来最高値を更新した。週初6月30日、1.1728でオープンしたユーロ/ドルは、米金利の急低下が好感され、1.17台後半へ急騰した。7月1日、ユーロ/ドルは米金利低下継続を支えに2021年9月以来の高水準となる1.1830まで続伸するも、複数の米経済指標の強めの結果が重しとなり、一時1.17台後半へ反落した。もっとも引けにかけては、1.08台を回復した。2日、ユーロ/ドルはドル買い相場を受けて1.17台半ばへ下押し場面も見られたが、米経済指標の弱めな結果を受けドルが売り戻され、1.18付近に値を戻し概ね下に往って来いとなった。3日、ユーロ/ドルは良好な米6月雇用統計の結果が重しとなり1.17台前半に急落するも、引けにかけては1.17台後半に水準を切り上げた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.17台後半で取引されている。

		前週末	今 週			
		6/27(Fri)	6/30(Mon)	7/1(Tue)	7/2(Wed)	7/3(Thu)
ドル/円	東京9:00	144.67	144.51	143.80	143.37	143.53
	High	144.94	144.77	143.98	144.24	145.27
	Low	144.20	143.79	142.69	143.32	143.45
	NY 17:00	144.65	144.01	143.42	143.69	144.93
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1694	1.1728	1.1788	1.1805	1.1799
	High	1.1754	1.1789	1.1830	1.1810	1.1810
	Low	1.1684	1.1708	1.1762	1.1747	1.1717
	NY 17:00	1.1723	1.1788	1.1807	1.1800	1.1757
ユーロ/円	東京9:00	169.20	169.45	169.45	169.22	169.42
	High	169.80	169.85	169.64	169.76	170.54
	Low	168.65	168.77	168.46	169.07	169.34
	NY 17:00	169.52	169.66	169.31	169.45	170.42
日経平均株価	40,150.79	40,487.39	39,986.33	39,762.48	39,785.90	
TOPIX	2,840.54	2,852.84	2,832.07	2,826.04	2,828.99	
NYダウ工業株30種平均	43,819.27	44,094.77	44,494.94	44,484.42	44,828.53	
NASDAQ	20,273.46	20,369.73	20,202.89	20,393.13	20,601.10	
日本10年債	1.43%	1.43%	1.39%	1.42%	1.44%	
米国10年債	4.27%	4.23%	4.24%	4.28%	4.35%	
原油価格(WTI)	65.52	65.11	65.45	67.45	67.00	
金(NY)	3,287.60	3,307.70	3,349.80	3,359.70	3,342.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 本邦では、7日(月)に5月毎月勤労統計が公表予定となっている。年初における名目賃金総額の伸びは非常に弱かったが、市場ではうろうろ年を受けた統計の歪みという解釈が支配的である。もっとも、それらの影響が捌けているはずの前回4月分も+2.0%(前年比、以下同様)と軟調な結果になっており、実質賃金総額も▲2.0%と深いマイナス圏に沈んでいる。引き続き、家計の実質所得環境は非常に厳しい。共通事業所ベースで所定内給与(≒基本給)の伸びを確認しても4月に+2.5%となっており、強さは全く感じられない。もっとも、今後は本年春闘の結果が徐々に波及することも期待されよう。3日には春闘の最終集計が連合より公表されているが、平均の賃上げ率は+5.25%、ベア部分も+3.70%と前年を上回る伸びを示した。今後はこれが賃金情勢に徐々に反映される中で、物価上昇率の低下も相まって、市場では年後半における実質賃金プラス転換を期待する向きが多いように思う。なお、5月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、現金給与総額を+2.4%、実質賃金総額を▲1.6%と見込んでいる。
- 米国では、9日(水)にFOMC議事要旨(6月会合分)が公表される。6月会合は、4会合連続で政策金利の据え置きを決定。声明文では見通しを巡る不確実性が依然大きいものの、改善しているとの言及が話題を集めた。ドットチャートおよびスタッフ経済見通しは総じて利下げ路線にとって厳しい内容が目立ち、パウエルFRB議長会見においても利下げを急がない姿勢が提示された。6月会合を見る限り早期の利下げは見込みにくいものの、足許において市場は9月会合までの利下げ開始を織り込みつつある。

なお同日は、米相互関税に関し上乘せ部分の再導入期限を迎える。本稿執筆時点までに確認できる各種報道を踏まえる限り、具体的な交渉が妥結しているのは、英国・中国・ベトナムに限られる。英国は対米貿易赤字国、中国は最大の競争相手として、いずれも特殊な対応をしたと考えられる。翻ってベトナムは、相当に米国有利な妥結がなされたようだ。米政府高官の発言を踏まえる限り一部の国については交渉が続いている間の関税賦課延期は十分にありそうに思えるが、合理的な予測はやはり困難だろう。

	本 邦	海 外
7月4日(金)	・5月家計支出	・独5月製造業受注 ・ユーロ圏5月生産者物価指数
7日(月)	・5月毎月勤労統計 ・5月景気動向指数(速報)	・独5月鉱工業生産 ・ユーロ圏6月センチックス投資家信頼感 ・ユーロ圏5月小売売上高
8日(火)	・5月国際収支 ・6月景気ウォッチャー調査	・独5月貿易収支 ・米6月NFIB中小企業楽観指数
9日(水)	・6月工作機械受注(速報)	・米5月卸売在庫(確報) ・米FOMC議事要旨(6月会合分)
10日(木)	・6月国内企業物価指数	—
11日(金)	—	・独6月消費者物価指数(確報) ・独5月経常収支

### 【当面の主要行事日程(2025年7月～)】

参議院選挙(7月20日投開票)  
 ECB政策理事会(7月24日、9月11日、10月30日)  
 FOMC(7月29～30日、9月16～17日、10月28～29日)  
 日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月18～19日、10月29～30日)

国際為替部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版(FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～)
2025年6月18日	貫かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年5月分)
	週末版(変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～)
2025年6月12日	日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直接投資の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～
2025年6月6日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～)
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる？～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版(ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～)
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国価格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年4月分)
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマンデートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～)
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分)
	日米通商交渉プレビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～)
2025年4月9日	トランプ大統領は「カーブ効果に耐えられるのか
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か？
2025年4月7日	インバウンド需要はピークアウトするか？
2025年4月4日	週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～)
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～)
2025年3月25日	インフレに適應する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～
2025年3月24日	インフレか、デフレか～FOMCを終えて～
2025年3月21日	週末版(日銀会合を終えて～「史上最大の円ロング」、2つの先行き～)
2025年3月18日	「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について
2025年3月17日	日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年2月分)
2025年3月14日	週末版(史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～)
2025年3月12日	過去最大の円ロングに勝算はあるのか？
2025年3月11日	テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～
2025年3月10日	テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～
2025年3月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～)
2025年3月5日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～
2025年3月4日	トランプ発言を受けて～「円安はするい」の一点張り～
2025年3月3日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～
2025年2月28日	週末版
2025年2月27日	欧米デカップリングに対するECBの見解
2025年2月25日	ドイツ総選挙レビュー～「壁の内側」では何も変わらず～
2025年2月21日	週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～)
2025年2月20日	トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分)
2025年2月18日	円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」
2025年2月17日	本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～
2025年2月14日	週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～)
2025年2月13日	ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～
2025年2月12日	デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音
2025年2月10日	為替需給から整理する日米首脳会談
2025年2月7日	週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～)
2025年2月5日	関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～
2025年2月4日	「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？
2025年1月31日	週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～)
2025年1月30日	FOMCを終えて～近づく「利下げの終わり」～
2025年1月28日	一抹の不安を感じる大統領と財務長官の齟齬
2025年1月27日	日銀会合を終えて～円安次第、変わらず～
2025年1月24日	週末版
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁